

(独立行政法人教員研修センター委嘱事業)

教員研修モデルカリキュラム開発プログラム
(平成20年度 教育課題研修)

報告書

プログラム名	児童・生徒の国語力及びメディア活用能力を高め、自立した生涯学習者を育成するための指導力向上を目指す教員研修プログラム
プログラムの特徴	19年度に当開発プログラムに取り組んだ成果と課題をふまえ、引き続き児童・生徒の国語力及びメディア活用能力の育成、教員自身の情報リテラシーの定着を図る研修プログラムを開発し、DVD、HP等で教員の研修に供する。

平成21年3月

別府大学 大分県教育委員会

開発の目的・方法・組織

1 開発の目的

平成 19 年度に続き教員研修モデルカリキュラム開発プログラム(以下、開発プログラム)に取り組みさせていただくことになった。昨年度の開発プログラムの主題「国語力とメディア活用能力を育成するための指導力の向上」を引き継ぎ、深め、発展させようと努めるとともに、とくに学校図書館の人と資料と機能を通して所期の目的を果たすために研修を深めることにした。

本年度は、別府市教育委員会と連携して「学校図書館に係る教員及び学校司書等研修会」を立ち上げ、年間 8 回の研修会実施を中心に開発プログラムに取り組むことにした。

なお、昨年度制作した DVD「深め 発見する喜びー教員の指導力を拓く調べ学習」の応用編を全県の小中学校及び関係機関に配布し、研修に活用していただくことにする。

昨年度の開発プログラムの中で明らかになったいくつかの課題を引き継ぐとともに、本年度年度の開発を進める。

国語力とメディア活用能力の育成について、残された課題

- * 国語力 調べる力、報告文にまとめる力、報告・発表・討論する力、コミュニケーションする力の育成について
- * メディア活用能力 自ら課題を見つける力、情報を集め取捨選択する力、主体的に判断する力など、課題解決力の育成について
- * 開発プログラム「まとめと還流」のために出した DVD『深め 発見する喜びー教員の指導力を拓く調べ学習』、小冊子『「調べ学習」支援・指導のてびき』を活用した研修会で出された課題について

「学校図書館に係る教員及び学校司書等研修会」で明らかになった課題

- * 司書教諭と学校司書の任務分担と提携の仕方
- * 学校図書館を活用した「調べ学習」など、実践上の問題
- * 児童・生徒の読書力の向上を目指す学校図書館の役割



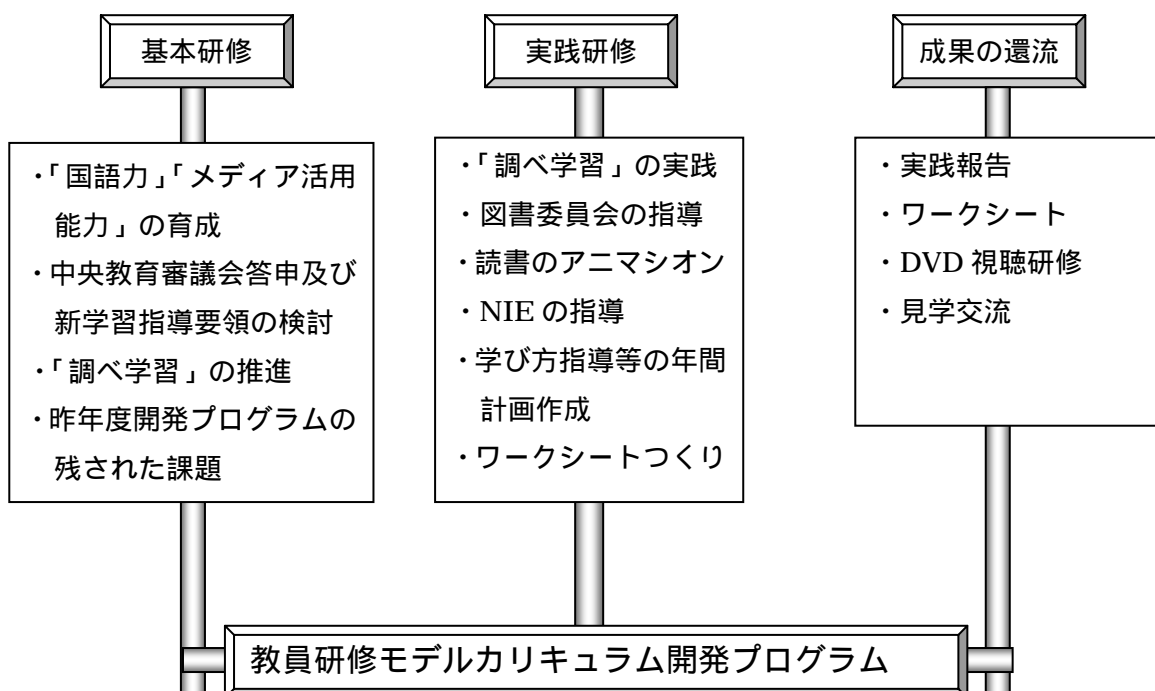
- * 図書館行事、図書委員会の指導など実践活動の交流

中央教育審議会答申及び新学習指導要領の分析・検討で明らかになった課題

- * 生きる力
- * 識基盤社会
- * 言語力

2 開発の方法

(1) 開発プログラムの主題と基本的な構想



DVD 「深め 発見する喜び」(応用編 2009年版)の視聴研修
HP

基本研修

平成 19 年度に続き当開発プログラムに取り組もうとした矢先、中央教育審議会答申が発表され、学習指導要領改定のねらいとその概要が示された。「知識基盤社会」(knowledge based society)、これからの社会に求められる主要能力「コンピテ(タ)ンス」(competence)や「キー・コンピテンシー」(key competency)そこで、学習指導要領改定の基本的な事項を学習することから「開発」に取り組むことにした。

まず「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに特に意を用いなければならない」という新教育基本法をふまえた学校教育法第 30 条 2 項等の条文が目を引く。問題解決学習過程において国語力及びメディア活用能力の育成を図るために児童・生徒に欠かせないことは思考力・判断力・表現力であり、それらを指導・支援する理念や方法を研修するためにプログラムの開発を進めた。

続いて 課題解決に必要な思考力・判断力・表現力の育成について、「ゆとり」教育から学力重視教育への転換について、基礎的・基本的な知識・技能の習得について、「生きる力」という理念の共有についても学習を深めながら、「開発」を進めることにした。

実践研修

児童・生徒に真の国語力・情報活用能力を身につけるための指導を段階的・系統的に行う必要がある。そのための教員の指導力向上を図る。

子どもの読書活動を積極的に推進するために学校図書館の充実と利活用の促進を中心に別府市教育委員会と連携して開発を進める。

司書教諭、図書館担当教員、学校司書のパワーアップ、スキルアップを図るために別府市教育委員会との共催により 8 回の研修会を開催する。

新学習指導要領検討学習、図書委員の交流とワークショップ、NIE の実践、読書のアニメーションの実践、「学び方」指導体系表の作成等に取り組む。

第 5 回子どもの読書活動推進研修会(別府大学主催、大分県教育委員会、大分県学校図書館協議会後援)において実践報告し、交流と研修をする。

成果の還流

DVD 作成

「深め 発見する喜び」(応用編)を制作、大分県内小中学校及び教育関係機関に配布し、研修に供する。

DVD 視聴研修

配布した DVD を活用して研修する。学校代表者による研修会を実施し研修の輪を広げる。

研究発表・実践交流

別府市内小中学校を中心に研究発表し、実践の交流を図る。

第5回子どもの読書活動推進研修会資料（冊子）

同冊子を活用して、学校図書館の運営、読書指導、司書教諭・図書館担当教諭・学校司書の連携について研修する（小学校）。総合的な学習を中心に「調べ学習」を通してメディア活用能力の育成について研修する（中学校）。



アンケート調査

研修会ごとにアンケートをとり、意見・要望・疑問などを代表者会で集約、公表し、次の研修に生かす。開発の方法については、開発推進委員会で本開発プログラムの進め方について協議し、次のように確認した上で取り組みを始めた。

- (1) 本プログラムの主題について検討し、キーワードを抽出・確認の上意思統一を図った。

本開発プログラムの主題と基本的な取り組み

19年度に当開発プログラムに取り組んだ成果と課題をふまえ、引き続き児童・生徒の国語力及びメディア活用能力の育成、教員自身の情報リテラシーの定着を図る研修プログラムを開発し、DVD、HP等で教員の研修に供する。



国語力及びメディア活用能力：昨年度の【国語力は文化審議会の『これからの時代に求められる「国語力」』、メディア活用能力は『初等中等教育における情報教育の考え方』に



【「中央教育審議会答申の5学習指導要領改訂の基本的な考え方（１）～（６）」】、【「小学校学習指導要領解説 国語編」第1章、第2章】より、一応概念規定した。

教員自身の情報リテラシーの定着：学校図書館の図書・雑誌・新聞、パソコンを中心にした諸メディアの収集・整備・活用のすべてのついてまず教員のリテラシーを定着させることにより、指導力の向上を図る。

DVD,別府大学 HP 等で教員の研修：8回の研修会の資料、第5回子どもの読書活動推進研修会資料（いずれも冊子）を配布し、学校での研修にも活用できるように配慮したので、とくに「てびき」は作らない。県内の関係機関にはDVDにより研修の輪を広げたい。

DVD で研修：「深め 発見する喜び」（応用編）を昨年度に引き続き全県の小中学校に配布し、研修に供する。

（２）研修内容

講演、講義、見学、スキルアップ研修、DVD視聴研修で構成する。

講演	講師・朝比奈大作氏、犬塚まゆみ氏、紺野順子氏
講義・講習	講師・得松昭行氏に「メディアの活用の実践力」について学ぶ。 講師・加納雅子氏に「国語力の育成」について学ぶ。 講師・小田光宏氏に「メディア活用スキルアップ」を学ぶ。
見学・交流	佐賀県伊万里市 伊万里市民図書館 同 大坪小学校図書館

実践交流	別府市内 3 小中学校の実践報告をもとに、各校の実践を交流
DVD 視聴研修	小学校 2 校、中学校 1 校で DVD を視聴し研修 小中学校代表 14 名による意見交換会『「調べ学習でおさえおきたいこと」 「国語力とメディア活用能力の育成」について』



(3) まとめと還流

DVD 制作

DVD 視聴研修

第 5 回子どもの読書活動推進研修会資料 (冊子)

研究発表・実践交流

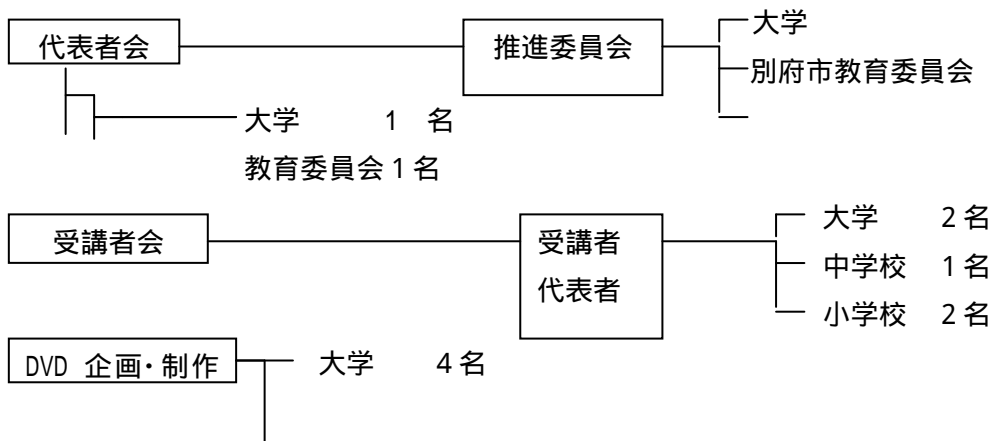
アンケート調査

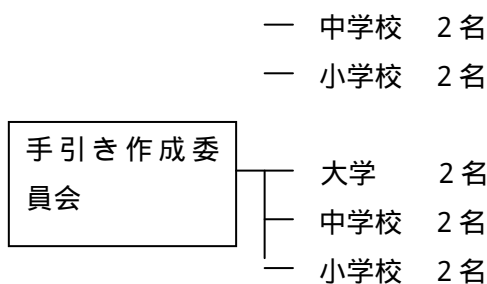
3 開発組織

推進委員名簿

氏名	所属機関 職名等	役割分担
佐藤允昭	別府大学教授	全体の総括（代表）
山本勇一	大分県教育庁義務教育課管理監	全体の総括（副代表）
佐藤雅彦	大分県教育庁義務教育課指導主事兼主幹	国語力向上のための指導担当
甲斐徳人	大分県教育庁義務教育課指導主事	国語力向上のための指導担当
伊藤裕治	中学校司書教諭（大分県学校図書館協議会事務局長）	学校図書館の利用指導担当
高橋一成	大分県教育庁生涯学習課主任社会教育主事	生涯学習の立場からのプログラム検討担当
増本貴光	大分県立図書館主任司書	公共図書館担当
梅田潤子	中津市立北部小学校教諭	公共図書館担当
岡本三保	杵築市立北部中学校教諭	学校図書館担当
矢野美帆子	大分県立豊府中学校教諭	国語力向上のための指導担当
佐藤由美子	別府大学非常勤講師	国語力向上のための指導担当
得松昭行	別府大学短期大学部教授・明星小学校校長	学習情報センターとしての学校図書館担当 報告書作成
高橋敦文	別府大学短期大学部教授	学習情報センターとしての学校図書館担当
佐藤賢之助	別府大学教授	学校図書館担当
石井保廣	別府大学短期大学部教授	学校図書館担当
小沼俊男	別府大学非常勤講師	メディアリテラシーの指導担当
皆上勝哉	別府大学非常勤講師	DVD制作担当
後藤弘子	別府大学メディア教育・研究センター職員	メディアリテラシーの指導担当
室谷征一郎	別府大学メディア教育・研究センター職員	国語力向上のための指導担当
足立貴一	別府大学メディア教育・研究センター職員	DVD制作及びメディアリテラシー担当
吉岡義信	別府大学附属図書館事務長	DVD制作及びメディアリテラシー担当
佐藤サチ	別府大学附属図書館司書	図書館担当
川野洋子	別府大学附属図書館職員	図書館担当

開発プログラム推進委員会





開発の実際とその成果

1 研修の背景、ねらい

研修の背景

(1) 当面する課題を明らかにして

司書、司書教諭養成課程を有し、司書講習も40年以上の歴史を持つ本学では、大分県教育委員会、大分県学校図書館協議会の後援により「子どもの読書活動推進研修会」毎夏開催している。その中で子どもの読書に係る諸課題を取り上げて、講演、スキルアップを図るフィールドワーク、実践と交流、見学など幅広く取り上げ、研修を重ねている。

しかし、とくに以下に挙げるような課題については、1回の研修会では解決の糸口さえつかめないことから、独立行政法人教員研修センター委嘱事業に応募して、「児童・生徒の国語力及びメディア活用能力育成する教員の指導力向上」のための研修プログラムの開発に取り組むことにした。そして2年が経過した。

子どもの読書活動をめぐる諸課題

学校図書館の「人」「資料」「機能」「予算」等の貧弱な実態など、子どもの読書環境に係る課題

各教科、総合的な学習で学校図書館のメディアをいかに利活用するか情報教育の課題

子どもの国語力（言語力）、メディア活用能力向上に係る実践上の課題

司書教諭、学校司書、図書館担当教員の連携・協力に関する課題

以上、「今日的な教育上の重要課題について、各教育委員会等と連携して研修カリキュラムを開発、実践、評価、改善」(公募要項)したいと考えて、研修を進めることにした。

(2) 国語力、メディア活用能力の概念を確認して

中央教育審議会答申及び新学習指導要領の中の国語力、メディア活用能力から

知識基盤社会(knowledge based society)の時代を担う子供たちに必要な能力をOECDは「主要能力」(key competency)と定義づけている。このような社会において、一定の役割を果たすためには、基礎的・基本的な知識・技能の習得やそれらを活用して

課題を見出し、解決するための思考力・判断力・表現力等が必要である。学校教育は生涯学習の重要な基盤である。(現行学習指導要領の理念)

「自ら学び自ら考える力を育成する」という理念は、日々の授業において、教師が子どもたちに教えることを抑制するよう求めるのではなく、教えて考えさせる指導を徹底することが重要である。

読書などを通して自己と対話しながら自分自身を深めること。

課題を見出し、解決するための思考力、判断力、表現力等が必要であること。

知識・技能の活用など思考力・判断力・表現力等の育成にとって不可欠な学習活動として

- ・ 体験から感じ取ったことを表現する
- ・ 事実を正確に理解し伝達する
- ・ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする
- ・ 情報を分析・評価し、論述する
- ・ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する
- ・ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

各教科において、基礎的・基本的な知識・技能をしっかりと習得させるとともに観察・実験やレポート作成、論述といった知識・技能を活用する。これらの学習活動は学校の教育活動全体で行うこと。

コミュニケーションや感性・情緒、知的活動の基盤である国語をはじめとした言語の能力の重視や体験活動の充実を図ることにより、他者、社会、自然・環境とのかかわりの中で自分への自信をもたせる必要があること。

(3) 別府市立小中学校の現状と課題から

別府市教育委員会から別府大学へ出された要望書の趣旨を活かし、実現をめざす。

司書教諭、図書館担当教諭や学校司書の実践力を高めたい

「子どもの読書活動推進計画」の具現化を図りたい

新学習指導要領「言語力の育成」のために教員の資質向上を図りたい

学習情報センターとしての学校図書館の整備と積極的な利活用指導法を学びたい

研修のねらい

- (1) 平成20年1月の中央教育審議会答申から学習指導要領改訂の基本的な考えを学び、これを踏まえて3月に公示された学習指導要領の検討を行う。
- (2) 昨年に続き、国語力とメディア活用能力の育成を図るための教員の指導力向上をめざしていかに効果的・効率的に研修活動を進めるか、具体策を考える。
- (3) 自ら課題を見付け、学び、考え、主体的に判断し、問題を解決する能力を育てようとする【自発性】【主体性】【自立性】を持った児童・生徒をどのようにして育成す

るか追求する。

- (4) 別府市教育委員会と連携して、学校図書館を中心に児童・生徒の読書活動をいかにして推進するか、実効性のある具体策を考える。
- (5) 別府大学の司書課程を中心に子どもの読書活動推進のためのノウハウを積極的に提供する。また、別府大学メディア教育センター、大学図書館、博物館、アーカイブズセンターなどの諸施設の開放と活用を促し地域貢献を進めるための学内の連携・研究支援体制づくりに取り組む。

2. 研修日時、期間、日程、講師

- 第1回 日時 平成20年6月17日(火) 15:30~17:00
講演 「子どもの読書活動を推進するためのいくつかのヒント」
- 第2回 日時 平成20年7月24日(木) 10:00~15:00
講演 先進的な学校図書館の実践に学ぶ - 知恵と熱意と力で子どもを本好きにしよう -
- 第3回 日時 平成20年8月8日(金) 9:00~15:00
講演 「子どもの未来を信じて - 図書館との40年 - 」
- 第4回 日時 平成20年8月19日(火) 9:30~11:30
講演 「学ぶ喜びを広げる司書教諭の活動」
-本好きの子どもにするために-
- 第5回 日時 平成20年8月26日(火) 10:00~15:00
講義と演習 「ウェブ情報の検索スキルアップ」
第6回 日時 平成20年10月31日(金) 15:30~
研修テーマ 図書委員会活動の指導
- 第7回 日時 平成20年12月11日(木) 15:30~
テーマ 「教員が取り組んだこと、学校司書が取り組んだこと」
- 第8回 日時 平成21年2月12日(木) 15:00~17:00
望ましい学校図書館のあり方 学校図書館の基本的任務を考える

受講者の人数 教員20名 学校司書8名

研修会場 別府大学(メディア・教育センター)

3 研修項目の配置の考え方

- * 講師による講演、講義、講習、ワークショップ
- * 実践発表・実践交流
- * 見学・交流
- * 受講者代表者会
- * DVD制作
- * DVD視聴研修

4 研修項目の内容、実施形態

研修1 平成20年6月17日 15:00~17:00 別府大学

- * 別府大学長、別府市教育長から本研修会の意義と方向性について訓話。
- * 「自校の学校図書館を点検し、改善すべきことを考えよう」
- * 「鶴岡市立朝暘第一小学校長の言葉に学ぼう」
- * 「岡山市立宇野小学校『としょかんのちかい』に学ぼう」

研修2 7月24日 10:00~15:30 別府大学

- * 「新聞を使って情報活用能力を育成しよう」 NIEに取り組もう
- * ワークショップ「やってみよう 読書のアニメーション」
- * さまざまな朗読のしかた「みんなで楽しく詩を読もう」
- * 『夢を追いつづけた学校司書の四十年』(五十嵐絹子著 国土者)から
大切な読書の入門期を「本嫌い」や「本離し」や「図書館ざらい」をふやさない
ために

研修3 7月31日 8:00~17:30 見学 伊万里市民図書館、伊万里市立大坪小学校学校図書館

- * 伊万里市民図書館は「伊万里市子どもの読書活動推進計画」にどのように参画しているか
- * 伊万里市民図書館はどのように学校図書館や司書教諭・学校司書の研修活動を支援しているか
- * 伊万里市民図書館の児童サービス、子どもの読書の実態について
- * 大坪小学校図書館の蔵書状況・蔵書計画・予算、貸出しの状況、図書委員会の指導・活動、伊万里市民図書館の支援・提携、調べ学習への対応、司書教諭と学校司書との

連携・分担、図書館行事の取り組み、ボランティアの参加などについて

研修4 8月19日 9:30~12:00 別府大学

- * 講義 「学ぶ喜びを広げる司書教諭の活動」大分市立中島小学校司書教諭 加納雅子氏
- * 読書活動をいかに活性化するか
- * 学習活動を支援する学校図書館の役割
- * いかに教職員と連携して学校図書館を運営するか

研修5 8月26日 10:00~15:00 別府大学

- * ウェブ情報のスキルアップ講習
- * ウェブ情報の検索方略
- * 検索エンジンを使いこなそう
- * ウェブ情報源選択のコツ
- * 教育情報を集める
- * 国立国会図書館の遠隔利用
- * 調べ方を調べる

研修6 10月31日 15:30~17:00

- * 石井桃子に学ぼう
- * 自校の学校図書館の現状をチェックし、改善点を一つでも克服しよう
- * 図書委員会の活動と指導

研修7 12月11日 15:30~17:00 別府大学

- * 実践発表と交流 1 司書教諭と学校司書、司書教諭と教諭の連携による図書館運営、調べ学習コンクールの実施、図書館だよりの発行、読書環境整備の取り組みなどの発表
- * 実践発表と交流 2 学校図書館行事(「としょかんまつり」)を図書委員会中心に取り組んだ実践例の発表

研修8 2月12日 15:00~17:00 別府大学

- * 講演会と交流 講師 紺野順子氏
演題「望ましい学校図書館のあり方 学校図書館の基本的任務を考えるー」
閉会后、「紺野順子先生を囲んで」活発に質疑応答

研修9 8月7日 9:00~15:00 別府大学

- * 第 5 回子どもの読書活動推進研修会
- * 講演 「子どもの未来を信じて—図書館との 40 年」
講師 伊万里市民図書館 館長 犬塚まゆみ氏
- * 講演 「学習指導要領を超えて」
講師 横浜市立大学教授 朝比奈大作氏
- * 実践発表と交流
第 1 分科会 「調べ学習とメディア活用能力の育成」
杵築北部中学校 教諭 矢野美帆子
第 2 分科会 「学校図書館の充実と活用」
森中央小学校 学校司書 金粕洋子

5 実施上の留意事項

- * 研修が所期の目的を達成することができるかどうか見極めるとともに、受講者が主体的に学ぶことができるようするため受講者代表者会議を適宜開く。
- * 学校現場の状況、児童・生徒の現状と課題、実践上の問題点などを出し合い、考えあひ、講師から多くのヒントを得るようにする。
- * わが校では、児童・生徒に学ぶ喜びと充実感を持たせる教員の指導力・授業力アップを図る校内研修になっているのかどうか。研修のあり方を振り返り、さらに充実・活性化するための改善策を考える。
- * 研修の中間まとめとして、12 月第 7 回研修会で小中学校の実践発表を行う。
- * 昨年の DVD「深め 発見する喜び」の応用編を制作し、大分県内小中学校や教育関係期間に配布し、研修に供すことにしている。

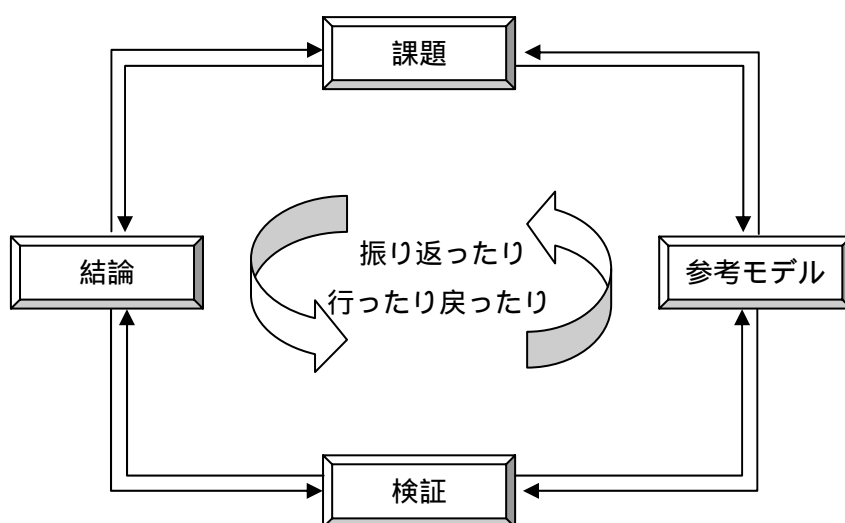
6 研修の評価方法

- * アンケート調査 研修後、学んだこと、学びたいことを B5 版 1 枚に書いて提出。代表者会議でこのアンケートをもとに次回の研修計画を立てる。
- * レポート提出 8 回の研修を通してとくに学んだこと、新しく研修したいことなどを A4 版 1 枚でいどに書いて提出。
- * 受講者代表者会議 全体会議
代表者会議で研修の状況や課題などをもとに研修の進め方を提案。
全体会で学んだこと、学びたかったこと、要望、感想などを出し、今後どんなことに力を入れていくかなどを述べ、交流。
- * 推進委員会による総括 20 年度開発プログラムに取り組んで

成果と課題、とくに学校現場での還流活動について、今後の教育委員会との連携について総括会議。

7 研修の成果と課題

(1) 国語力及びメディア活用能力の育成を図る指導



(2) 指導力を向上させるための研修

DVD 視聴研修会 課題設定のプロセスと指導・支援のし方研修 「情報・メディアを活用する学び方体系表」(略称「学び方体系表」)作成研修会 NIE、読書のアニメーションのスキルアップ研修会などを持ったが、これらの中から DVD 視聴研修会の討論のようすをテープをおこしたものをかなり省略して報告するとともに、開発プログラムを通して多くの受講者から出された疑問や要望に応えるために補足の文を入れることにする。

DVD 視聴研修会で討論したこと(要約)

事前に DVD「深め 発見する喜び」(2008 年版)を視聴する時間を設けておいて、春休みの一日をさいて延べ7時間半「調べ学習の実践でおさえたいこと」「国語力とメディア活用能力を育成するとは」ということで研修した。小学校司書教諭、図書館担当教諭、一般教諭、中学校教諭(国語、総合的な学習主任)計14名出席。司会は得松昭行(別府大学)。

司会 DVD と冊子からとくに印象に残った、もっと学びたいことを挙げてください。

A こんな素晴らしいDVD と冊子を配布してくださって本当にありがたい。本格的というか、調べ学習を5段階に分けて、それぞれのプロセスにおける指導（支援）をていねいに細かく説明してくれている。あのくらい課題を決めるところから「自ら」の意欲や力引き出すのだな、と大変勉強になった。

B 同時にもらった『「調べ学習」支援・指導のてびき』の8ページから19ページをコピーしてみんなに事前に読んでもらっていたので、鴫田先生の指導がよく理解でき、実践に活かす意欲が出て来た。

C 「課題を決めるのを簡単に済ませてはいけない」「課題は広がりから深めていくもの」「大テーマから中テーマへ、中から小へ」とDVD でも「てびき」でも指摘しているが、あの6年生はどうだったのか、発表を見て、ちょっと疑問に思うところもあった。

司会 課題の決め方について出ていますが、これは後で少し検討することにして、他にはどんなことが印象に残りましたか。

D 何の時間を使って調べ学習をしたのかよく分からなかったが、確かに天体のことを分かったこと、疑問点などを出しながら、意欲的に調べ学習を進めていたが、教師は時間の見通しを持っていたのかどうか。現実はなかなか時間が取れずに困っているので。

E 「自ら課題を見つけ」たのかどうか、ちょっと疑問に思った。それから、後の方でリーダーの女子がレベルの高い(?)ことを話していたが、発表の仕方はイマイチだったなあ。鴫田先生は発表についてのポイントを述べているけれど、DVD 全体から発表についてはもっと力をつけなければと感じた。

F 発表は、発表者ばかり見て評価してはいけない。発信者の工夫と言うか、いろいろなメディアを用いて発表するように指導しなければならないが、聞く側・受信者側がどう反応するか、質問や意見を出すかが大事なことだ。DVD で見る限り聞く側の力がついていなかった。これは指導が落ちていたのではないかな。

司会 国語力のうち「話すこと・聞くこと」の育成については、DVD でも「てびき」にもほとんど出ていませんね。学習指導要領をここに持ってきていますが、6年生についての記述の一部を読んでみますよ。「考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関係付け」「目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫し

ながら」「話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べ」「計画的に話し合う」などと内容が示されています。

G 自ら課題を見つけることも、意欲的に調べることも、みんなに知ってもらおうと発表することも、それをしっかり聞いて学ぶことも、教科や総合的な学習できちんと指導することはもちろんのことだ。が、もっと大切にしたいことは、「小さな調べ学習」というか、日常的な、小さな発見・おどろきをとらえて、それらを調べたり、聞いたりする、みんなに伝えるようにすること。そういう時間を朝の会や帰りの会の短い時間を使って積み重ねていくことが、大きな力に育っていく。いま、TT でやっている1年生の小さな取り組みをHさん話してみたら。

H うまく言えるかどうか。思ったことを言える子、発表できる子、人の話をしっかり聞く子、興味のあることを追求する子をめざして、入学式の次の日からおや？なぜ？ふしぎに思ったものを見つけたら、教室に持ってきてもいいよと呼びかけた。このことは保護者にも学級だよりなどで伝えた。(中略)道端の草花、おうちで見つけたもの、ずかんにこんなことが出ていたなど、発見の報告が増えていく。(中略)6月からは1日に2人ずつみんなに発表するようにした。(中略)発表をしっかり聞く、聞きたいこと、分からないことはたずねる、聞かれたら分かるように話す。話す(発表する)聞く(たずねる)力がついてくると、「よい発表のしかた」を考えるようになっていく。(後略)

司会 1年生が、知ってもらいたいこと、知りたいこと(興味)を話したり、聞いたり、さらに調べたり、ということを楽しく繰り返していきながら、話す力、聞く力、調べる力育っていくという話でした。「小さな調べ学習」「ミニミニ・スピーチ」を日常的に実践しているすばらしい報告でした。

(H教諭の報告について質疑があったが略す)

司会 「さあ調べなさい。発表しましょう」では、自ら学ぶ意欲は出てきません。さまざまな工夫や努力や一定の指導がなされなければなりませんね。この辺で話題を変えましょう。初めの方で出されていた課題設定の大切さについて残りの時間話し合うことにします。「総合」のねらいの冒頭に「自ら課題を見付け、自ら学び、」で始まる文言があることを頭において。

I DVDの中の子供たちは、結構生き生きと、楽しそうに調べたりまとめたりしていたね。意欲的だった。鴛田先生もほめていた。でも、天体が本当に自分たちの課題だったのか、天体の何を知りたかったのかという疑問を持った。本当に知りたいことがあって、それを調べ、追求していった、何かが分かった、で、ぜひみんなに知ってほしいという一連の流れ

れみたいなものが私には見えてこなかった。それはとくに発表の場面を見ていて強く感じたなあ。

J 子どもの「面白そうだ」「やってみたい」(自発性)から「もっと深く知りたい」「続けて調べたい」(主体性・能動性)へ発展していくように指導・支援していくことが望ましいのは分かっているが、まだ自分にはその力がついていないと反省している。「自ら学ぶ力」

問題解決力を考える時、本当にやってみたいことに始まり、それを続け、広げ、深めたりする価値があることと分かり、失敗や遠回りをはねどけるねばり強さによって、少しずつ分かってくる。そこでまた振り返って、何を学んだか、もっと学びたいことはないのかなどに気づく。つまり、自分のやりたいことがふくらんでいく学習展開、解決しなければならないことが見えてくる学習展開をすべきなのだが、分かっちゃいるけどなかなかできない。

K 子どもを「やってみたい」という気にさせ、実行に移させるための意欲を高めるための教師の働きかけが欠かせないと思う。子どもが「やってみたい」「調べてみたい」という気になり、そう言い出さないと調べ学習は始まらないと言うことではなく、子どもの興味・関心を日常的に育てることを先ず考えていくべきだな。

L 小さな疑問であっても、放っておかないことだな。すぐ資料にあたって調べるようになったら一歩前進。しめたもの。資料で確かめるというちょっとしたこと、小さな利用の積み重ねを日常化する、習慣化することが大切だと思っている。

M 何のために、何について調べるのか、何を学びたいのか学ぶのか、どのようにして調べを進めるか、何に気づかせ、何を考えさせるのかといった学習の見通し・展開というか指導目標を明確にしておく必要がある。「探せた」「分かった」という喜びを引き出すには、適切なアドバイス、支援が欠かせない。

N 用意周到、準備万全ということか。生徒から必要な資料や情報の要求がどんどん出てくると「インターネットで探してみたら」ということにはなりかねない。適切なアドバイスができるようにわれわれも資料・情報を知り、調べる力をつけておかななくてはならない。必要な資料がわが校の図書館にはほとんどないから、「図書室で検索してみたら」とは言えない。生徒も学校図書館を当てにしなくなっている。せっかくやる気になったのに、そこから先に進めないんだなあ。学校図書館の貧弱さこそ調べ学習を阻害している最大の原因だと言いたい。

O メディアを介さない情報収集にも目を向け、子どもの足で、目や耳で情報を体験的に得

ることを大切にしなければならない。聞き取り・インタビュー、フィールドワーク・実験、観察や実験などいろいろ考えられる。子供たちが行動することで自ら得た情報、直接的で具体的で貴重な情報であるだけに、メディアで得た情報とは違う大きな意義をもっている。

P 知りたいこと、学びたいこと、やりたいことがどんどんふくらんでくる学習の展開、解決したい、実現したいことが見えてくる学習の展開、「自ら」を育てていく学習の展開を考えて総合的な学習を進めてきたつもりだ。生徒が本当にやってみたいこと、続けて取り組んでみたいこと、広げたり深めたりしてみたいことを見つけて、自ら学習を展開しようとする自発性や主体性を伸ばしたいと考えて実践したが、時間不足と多忙に「学力問題」も加わって、中途半端というか、挫折した感じだ。われわれの勉強不足・力量不足と重なって、「自ら」は頓挫しようとしている。

司会 時間がなくなったので、2点申し上げてしめくりにします。「調べ学習」はクルタウ(Kuhlthau)らの探求学習、問題解決学習、発見学習、課題学習などを発展させる形で研究・実践されてきて、総合的な学習もその一つとして、自らの問題解決力と生き方を振り返る学び方を身につけることを目的に1992年の学習指導要領で登場しました。しかし、今回の学習指導要領、みなさんどう読みましたか。どうお考えですか。もう一つ、中央教育審議会の答申(2009年1月)4.(3)の一部を読みます。「小中学校の教諭の残業時間が1月当たり平均約34時間になるなど、残業時間が増加している。」「子どもたちの指導に直接かかる業務以外の、学校経営、会議・打合せ、事務・報告書作成等の学校の運営にかかわる業務や行政・関係団体等の外部対応といった業務に多くの時間が割かれている実態が明らかになった。授業研究といった教師の工夫と相まって教育の質の向上を図っていくためには、何よりも、まず、教師が一人一人の子どもたちと向き合い、指導を行うための時間を確保することが重要である。」

ご多忙中、長時間研修の時間を取ってくださりありがとうございました。

補足 当日には時間がなく、大事なことを2点伝えることができなかったことを述べさせていただく。

1 国語力に係って「発表する」ことについて

教師の意図したことに沿った答えや意見を「良い答え」「良い意見」としてほめる授業をよく見ます。「正しいこと」を「上手に」発表するのが「良い発表」と思っている教師が多いのではないかと、教師好みの発表ができるようについ指導しているのではないかと、おかしいぞ、と思うことがあります。先生の言う(教える)ことはみんな正しい、みんなその通りだ、と思いついて入っている子は賢い子どもだろうか。

新指導要領小学校国語の冒頭の「1 教科の目標」に次のように出ている。

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝えあう力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

下線は筆者が引いたものだが、これらの文言を「解説書」で詳しく述べているので、ぜひ読んでいただいた上で、考えてみてほしい。子どもがある考えを持つ、表現する。教師や親（大人）もある考えを持つ。両者は同じことを考えることもあれば、違った考えを持つこともある。うまく言えることもあれば、ひっかかりながら言うこともある。授業で子ども同士が違う考えを持つことは当然のことだ。違った考えを持つことがまず大事、違った考えを認めることはなお大事。大事にした上でどこか一致できる点はないかを考える、探るように訓練することはもっと大事だ。友達と違う考えを持つことを、ごく当たり前のこととしていっしょに考える、受け入れることから、相手の考えを大切にすると人との関係が始まるし、そのような明るく、開放的な人間関係の中で言いたいことを言えるようになっていく。

みんな同じでなければならないというのはおかしい。考えは違って当たり前。拙い発表でも偏見を持たず、発表できる、認め合う、といったことを大切にすることにより、上の指導要領の目標は達成されていくと考える。

2 「活動あって学びなし」の総合学習になっていないか

児童・生徒一人ひとりの課題を何にするのかが大きな壁になっている場合が多い。研修会で日常的な「小さな発見」を大切にしていくことの意義が出された。課題を教師が与える、教師がいくつか例を挙げて選ばせる、子どもと教師がいっしょに考える、子どもに任せる、などと分かっているにもかかわらず、知的刺激を与え、意欲を高める働きかけや耕しをしていかないと、いざ課題を決めるとなるともうまくいかない。安易に学習に値しないことを課題にし、途中で投げ出してしまうことになってしまいう実践が少なくない。学校図書館に関連資料をそろえたり、経験・体験・実験・観察などを取り入れたりして、興味や関心を広げることも忘れてはならない。

「活動あって学びなし」と教師の指導性のなさを指摘する言葉もよく聞く。「指導でなく支援である」という言説を「指導ではいけない、支援でなければ」と誤解している教師が意外に多い。子ども自らの、自主的な活動の[自ら]を重んじるあまり、見守るだけ、子どもの活動を優先し、傍観しているだけの、机間巡視で歩き回るだけの教師が少なくないのではないか。

指導と支援を別のもの、対立するものと考えるのでなく、両者は子どもの活動、学びの進行状況を見て、適切に、タイムリーに、アドバイスやヒントを与えることが大切である。

8 研修実施上の課題と改善策

課 題

研修の時期や内容を考える

研究校との提携、実践家との提携、本学の司書講習講師による講演会や交流等を十分考慮して、幅広い研修を行う。

研修の輪を広げ、深める

教育委員会と推進委員会と教員代表が連携して学校現場の実態把握、教員の要望把握等を十分行って、今後の研修に活かす。

受講者の感想や要望を活かす

別府大学メディア教育・研究センター、附属図書館、博物館等を広く開放・PR し、活用の促進を図る

改善策

時期、募集、研修内容等

教育委員会、開発プログラム推進委員会、受講者代表者会とが学校現場の実情・要望・ニーズなどを十分把握して計画する。

研修の推進

研修期間内に短期間で終わらせるのではなく、その後どのように実践をし、どのような成果や課題があったか、開発推進委員会も加わって、実践報告会を開き各自の実践・研究を還流、指導力向上を図る。

「第6回子どもの読書活動推進研修会」(主催別府大学、後援大分県教育委員会、大分県学校図書館協議会)で、国語力、読書力、情報活用能力、読書環境の整備、学習情報センターとしての学校図書館、司書教諭や学校司書の任務等、本開発プログラムと関連づけた研修を継続的に行う。

研修成果をDVD、ホームページで公開し、データベースとともに研修に活用する。

DVD「深め 発見する喜びー言語力とメディア活用能力向上を目指す教師の支援ー」(応用編)の制作過程について。

DVDは、平成20年度制作した「深め発見する喜び」調べ学習基礎編に続き、応用編として、児童・生徒の言語力とメディア活用能力の向上を目指す教師の支援のあり方をテーマに研究実践を行い、子どもの能力向上に結びつく具体的な支援の方法を明らかにしている。

今回、DVD教材のねらいを教師の支援に焦点化したのは、調べ学習における教師の取り組みをみると、自由にやらせるという放任型から、子どもたちが調べさせられていると感じる過干渉型まであり、「何を」「どのように」支援したらよいのかが明確になっていないためである。調べ学習の各段階において、指導すべきことと、子どもたち自身に考えさせ自主的な活動を支援することの区別が曖昧のまま実践が行われている。また、子どもとの関わりについては教師個々の裁量に任されているため、よい取り組みがあっても、その指導・支援の実際に触れることができない。

こうした現状をふまえ、「深め発見する喜び」応用編は、調べ学習の教師の実践を映像で記録し、的確な指導をふまえた支援のあり方を顕在化させることを目標とした。実践校は2校で、5グループの調べ学習の支援について分析・検討している。教材は各教育現場で活用しやすいように、必要な項目を適宜選択できるDVDソフトとして制作した。

報告書の記載事項

- (1) DVDの内容、(2) DVD制作者、(3) 実践校、指導者、(4) DVD出演者、
- (5) 実践撮影記録経過、(6) 撮影終了後の制作経過

(1) DVDの内容

Disc

1、オープニング

メッセージ「調べ学習における支援のあり方」

実践校・指導者紹介

- 2、実践 その1 明星小学校調べ学習「大友宗麟」
課題の設定・研究計画書の作成・資料収集・見学
- 3、発表(1)「南蛮貿易」
- 4、実践経過と支援内容の分析・検討
- 5、発表(2)「400年、大友家が続いた理由」
- 6、実践経過と支援内容の分析・検討
- 7、発表(3)「ほうちょうをつくる」
- 8、実践経過と支援内容の分析・検討
- 9、発達段階に応じた教師の指導・支援

Disc

- 1、実践 その2 大分豊府中学校ポスターセッション「大分の先哲の生き方に学ぶ」
ポスターセッション概要
- 2、グループワーク1「テーマを絞る」
- 3、グループワーク2「ポスターのレイアウト、キャッチコピーを考える」
- 4、グループワーク3「ポスターを制作する」
- 5、課題設定からポスター制作までの実践経過と支援内容の分析・検討
- 6、ポスターセッション(1)田原淳グループ
- 7、実践経過と支援内容の分析・検討
- 8、ポスターセッション(2)双葉山定次グループ
- 9、実践経過と支援内容の分析・検討
- 10、言語力とメディア活用能力向上を目指す教師の支援
- 11、エンディング

(2) DVD制作者

制作 別府大学

企画・開発責任者 佐藤允昭(別府大学教授)

制作統括 小沼俊男（別府大学短期大学部初等教育科教授）

制作協力 佐伯印刷株式会社

撮影・編集 有限会社 クリエイティブ豊夢

（3）実践校、指導者

学校法人別府大学 明星小学校

指導者：小野善寛（学校法人別府大学 明星小学校副校長）

田中 肇（学校法人別府大学 明星小学校教諭）

大分県立大分豊府中学校

指導者：小池一彦（大分県立大分豊府中学校副校長）

佐藤由美子（大分県立大分豊府中学校教諭）

藤川満久（大分県立大分豊府中学校非常勤講師）

（4）DVD出演者

甲斐睦朗（元国立国語研究所長、京都橘大学教授）

鴫田道雄（千葉県袖ヶ浦市立根形小学校教頭）

小池一彦（大分県立大分豊府中学校副校長）

佐藤由美子（大分県立大分豊府中学校教諭）

藤川満久（大分県立大分豊府中学校非常勤講師）

小野善寛（学校法人別府大学明星小学校副校長）

田中 肇（学校法人別府大学明星小学校教諭）

司 会 小沼俊男（別府大学短期大学部初等教育科教授）

松田美香（別府大学文学部国文学科准教授）

立花志保（別府大学付属図書館司書）

（5）実践撮影記録経過

学校法人別府大学明星小学校

月日	調べ学習実施経過	DVD 制作経過
授業 1	<p>1、学習課題について知る 共通テーマを伝える：郷土の偉人「大友宗麟」 知っていることを書かせる。資料ビデオの視聴、インターネットを検索し、興味を持ったこと、調べたいことを整理させる。</p> <p>指導：社会科での学習を深める目的、取り組み方などの理解を深める。</p> <p>支援：大友宗麟に興味、関心を持たせる。 資料ビデオ・県立図書館から参考資料の取り寄せ。辞書、図鑑など図書資料整備。</p>	撮影 カメラ 2 台
授業 2	<p>2、テーマの設定 テーマを一つに絞る。 図書室・パソコン室での活動</p> <p>指導：テーマの絞り方の理解を深める。</p> <p>支援：調べる方法について選択肢を考えさせる。</p>	撮影 カメラ 2 台
授業 3 4	<p>3、テーマを深める テーマを「～について」から「なぜ～か」の発想を持たせる。 グループ化する。</p> <p>指導：問題解決型のテーマの設定。</p> <p>支援：～について調べて分かったことをさらに深める発想力を伸ばす。</p>	撮影 カメラ 1 台 村上
授業 5	<p>4、調べたことを発表する 質疑応答で答えられないことを課題とする。</p> <p>指導：質問の仕方、答え方のポイント。</p> <p>支援：質問・答えともに肯定的にとらえ次の段階への意欲に結びつける。</p>	撮影 カメラ 2 台
授業 6	<p>5、研究計画書をつくる テーマ、テーマ設定理由、仮説（予想）調べる方法 を書く。課題を解決するための個々の見通しを立てさせる。</p> <p>指導：研究計画の各項目の書き方。</p> <p>支援：答えを示すのではなく、子どもの考え方を深める。</p>	撮影 カメラ 2 台
授業 7	<p>6、資料・情報の収集のための見学 歴史資料館、学習館、遺跡などを見学し、必要な資料を収集する。</p> <p>指導：見学目的を明確にする。見学地の理解を深める。</p> <p>支援：デジカメを貸与、発表資料作成を支援。現場での質問</p>	撮影 カメラ 2 台

	への対応。見学先への依頼・交通手段の確保・引率。	
授業 8 9 10 11	7、インターネット・文献による情報の収集 中間発表会に向けて、インターネットや文献でテーマを深める。計画書に書いた仮説を確かめる、根拠となる事実を探す。 指導：研究計画書との整合性をみる。 支援：テーマの深め方の相談にのる。子どもが自分の考えを深められるようなことばかけをする。 必要に応じて、教師の考えを示し、結論は子どもに委ねるようにする。	
授業 12 13 14	8、資料・情報の整理・まとめ 各グループごとに調べたことのまとめをして、発表の準備をする。 指導：パソコン操作の説明 支援：資料作成のアドバイス	
授業 15	9、中間発表会 各グループの発表、質疑応答 指導：3点について気づいたことを用紙に記入する。 (1)資料について (2)内容について (3)発表の仕方について 支援：質問のやりとりが円滑になるように質問の意味をはっきりさせる、答えやすい環境をつくる、全体の進行、発表者への激励など。	撮影 カメラ3台
授業 16	10、中間発表会の検討 発表会の映像を見る。他のグループの発表と比較して、修正点を考える。他の児童の感想を参考にして改善点を明確にする。 指導：改善点のポイントを明確にする。 支援：発表は否定せず肯定的にとらえる。より分かりやすくするための選択肢を考え、子どもの判断に委ねる。	撮影 カメラ1台
授業 17 18 19 20	11、発表内容の修正をする。 資料の見やすさ、分かりやすさ、事実と意見の区別、発表の仕方について話し合う。また、話し方については別府大学 小沼俊男教授の指導を受ける。 指導：話し合うポイントを伝え、実施する。 支援：子どもの気づきを大事にしながら、改善方法などを一緒に考えるようにする。	授業講義
授業 21	12、最終発表 保護者を招待し、グループ別に発表を行う。 発表後、保護者に感想を求める。 「ほうちょう」は直前に調理し、発表会の席で振る舞う。 指導：発表会の手順、心構え。 支援：保護者と一体となる環境をつくり、子どもの緊張を和らげる。	撮影 カメラ3台
22	まとめ	

	<p>これまでの学習を振り返り評価する。 指導：実践成果を示す。 支援：得たこと学んだことを共有する。</p>	
--	---	--

大分県立大分豊府中学校

月日	調べ学習実施経過	DVD 制作経過
7/10	1、オリエンテーション（目標・内容・学習計画） ＊学習のめあてを知る ＊課題設定 ＊学習の見通しを立てる	
7/14	2、調べ学習 人物選び（インターネット・図書館利用）	
7/15	3、調べ学習 人物選び（インターネット・図書館利用） 指導：学習のねらい、課題設定、見通しの立て方 支援：先哲候補の提示（社会科との連携）	
7/18	4、夏休みの調べ学習に向け「聞く」を学ぶ 「相手の気持ちを引き出すインタビューのこつ」 別府大学・小沼俊男教授の講義 指導：インタビューの方法 支援：講師の依頼、実施、ポイントの把握	
夏休み	5、調べ学習 ＊資料・情報を集める ＊情報を記録しまとめる 先哲ゆかりの地を訪ね、調査・研究活動を行いレポートにまとめる。（インタビューする） 指導：課題解決型へ導く、研究計画書の立案 支援：調べる方法の見通し	
9/12	中間相互評価 夏休みのレポートを読み合う 指導：ねらいとの整合性 支援：グループワークの活発化	
9/19	礼状の書き方を学ぶ 夏休みの調べ学習でお世話になった人に礼状を書く 指導：日常生活と礼儀作法、手紙の書き方 支援：文章表現、辞書を引く	
9/25	ポスターセッションの方法を知る	

	発表準備 「ポスターセッション」について知る 指導：ポスターセッションの目的、組み立て方 支援：ポスターセッションへの関心を高める	
10/2 10/3	情報を絞り込む 発表準備 テーマを絞りこむ～伝えたいことは何か～ 指導：情報の選択、絞り込み方 支援：先哲の生き方に感銘を受けたこと、伝えたいことを考えさせ、学習意欲を高める	撮影 カメラ4台
10/9 10/10	発表準備 ポスターのレイアウトを考える 指導：既成ポスター事例紹介。情報の絞り込みのポイント。 支援：情報を共有し組み立てを考える	撮影 カメラ4台
10/16	再調査をする 発表準備 ポスター制作のための情報収集 指導：業績中心から生き方を深める取り組み 支援：曖昧な部分を聞き出し考えさせる	撮影 カメラ1台
10/22 10/23 10/30	コンピューターを使ってポスターを作る 発表準備 ポスター制作～コンピューター利用～ 発表準備 ポスター制作～コンピューター利用～ 指導：画像制作 支援：制作環境整備、技術科教師の支援	撮影 カメラ3台
11/10	自分たちの伝えたいことが伝わるポスターを作るコツを学ぶ 「思いを伝えるポスターの作り方」 広告制作会社 池邊寛さんの講義 指導：ポスター制作ノウハウ 支援：講師依頼、理解促進	
11/12 13	事実と意見を区別する 「自分の言葉で語る」 発表準備 ポスターセッションのための発表原稿作り 指導：発表の組み立て方、自分の言葉を生み出す方法 支援：聞き手に届くメッセージを考える問い	撮影 カメラ1台
11/20	自己評価、相互評価 発表準備 リハーサル・練習 指導：「発表」「質問」の具体指導 支援：改善項目の選択肢を考える問い	撮影 カメラ2台
11/27	自己評価・相互評価 中間発表「学級発表会」及び振り返り・修正（話し合い） 指導：組み立て、発表の仕方、質問への答え方	撮影 カメラ2台

	支援：自分の言葉の創造、勇気づけメッセージ	
12/4	伝え合い深め合う 本発表「学年発表会」 指導：ポスターセッションの成果 支援：得たこと、学んだことを考える	撮影 カメラ 2 台
12/12	まとめ これまでの学習を評価する 新聞に「学んだこと」を意見文にまとめて投稿する。 指導：学習の成果と課題をまとめる 支援：今後の活動にいかす視点	

(6) 撮影終了後の制作経過

月日	DVD 編集・制作経過	
10/2 1/22	各段階の撮影終了後部分編集	
1/23 2/6	実践校別に実践経過をまとめた DVD と収録・編集用台本を作成。(全体で 4 時間分)	
2/15 2/17	DVD 出演者による収録 出席者 甲斐睦朗(元国立国語研究所長、京都橘大学教授) 鵜田道雄(千葉県袖ヶ浦市立根形小学校教頭) 小池一彦(大分県立大分豊府中学校副校長) 佐藤由美子(大分県立大分豊府中学校教諭) 小野善寛(学校法人別府大学明星小学校副校長) 田中 肇(学校法人別府大学明星小学校教諭) 司 会 小沼俊男(別府大学短期大学部初等教育科教授) 松田美香(別府大学文学部国文学科准教授) 立花志保(別府大学附属図書館司書)	撮影 カメラ 3 台
2/23 3/16	構成・編集・コメント・著作権対応	
3/17	スタジオ収録 アナウンス	
3/18 3/26	DVD 教材編集、スタジオアナウンス、ナレーション テーマ、ブリッジ音楽等収録、DVD システム製作を経て ダビング	
3/27	報告書・DVD 教材送付	

大学・教育委員会連携による研修についての考察

別府市教育委員会が平成 19 年 7 月に策定した「別府市子どもの読書活動推進計画」の具現化に向け、連携して次のことを中心に取り組んだ。

- * 司書教諭、図書館担当教員、学校司書等の研修と実践交流
- * 読書指導年間計画、学び方指導年間計画などの作成、実践化
- * スキルアップ講習

各種ワークシート作成、ループリック作成と活用

学校図書館の整備と活用の促進 【以上、A 研修】

新しい学習指導要領の内容の内「国語力」「情報活用能力」について、指導主事と合同研修を続け、その成果を広げる。【B 研修】

その他

キーワード

「調べ学習」
国語力 言語力
メディア活用能力
中央教育審議会答申
小学校学習指導要領
中学校学習指導要領

(平成 20 年 8 月)

人数規模

C 21～50 名

研修日数

C 4～10 日

【問い合わせ先】

学校法人 別府大学

文学部

〒874-8501 大分県別府市北石垣82

TEL 0977-66-9635

詳細を以下に掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

http://repo.beppu-u.ac.jp/modules/xoonips/listitem.php?index_id=1995